

めて慎重な手続を踏んでいるということが現状ではないかと思うわけですが、手続についてはさておきまして、先ほどの長官の御説明にもありましたとおり、我々は異論を持っているわけですが、政府の説明によって、公的行為のいわば憲法的な根拠としては天皇の象徴たる地位というところに置かれていいることだと思ひます。

そうなると、天皇の象徴たる地位ということから憲法上明確な、截然とした問題点があるわけでありまして、国政に関する権能というものは有さないうことであるとするならば、お言葉の中身の問題としては結果として政治的であつてはならない、その意味におきましては形式性、儀礼性というものが中心となつた内容となる。当然これはこれまでもそうだったと思ひますし、いろいろ物議を醸した問題を除いては、まず憲法上の原則としてはそうなるというのが当然だと思ひますが、この点については長官でもどなたでも結構ですが、御説明をいただきたいと思ひます。

○工藤政府委員 先ほどお答えしたところでございますけれども、やはり今御指摘のように、憲法上天皇は「国政に関する権能を有しない」、かようにされているわけでございますから、天皇が国政に關与したのではないかとの疑ひを生ずることのないように内閣としても十分配慮すべきである、かようなことでございます。

○山花委員 最終的な決断と責任というものは総理のところに来るわけでありまして、これはもうこれまでのお答えのとおりです。総理はこの点についていかがお考えでしょうか。

○海部内閣総理大臣 ただいま法制局長官が申し上げたように、内閣の責任においてこれはいたさなければならぬ、陛下を政治的に利用するものではない、こう考へております。

【前文・天皇】

#### 41 天皇の公的行為及び大嘗祭についての内閣のかかり方

(一一八回・平二・五・二四)  
参・内閣・三号二三頁

○田淵哲也君 天皇の行為の種類には国事行為、皇室の公的行為、それから皇室の私的行為とあるわけですが、予算あるいは費用の出し方も、国事行為の場合は内閣の予算、各省庁の予算でやる、皇室の公的行為の場合は官廷費でやる、それから私的行為の場合は内廷費でやるということになっております。それから、内閣がどの程度関与するか。国事行為の場合は内閣の助言と承認によってやる、私的行為の場合はもちろん内閣は何ら干渉しない。

ただ、官廷費でやる皇室の公的行為の場合はどの程度関与でき得るものか、またするものか、お伺いしたいと思ひます。

○政府委員(工藤敦夫君) 公的行為の一般論という形で申し上げたいと思ひますが、公的行為と呼ばれるものは天皇の象徴としての地位に基づいて行われるわけでございます。国事行為以外ということでございます。国事行為でございませぬから内閣が助言と承認という形で関与するものではございませぬ。

それから、その内閣のかかり方というふうなことでございますが、その行為にかかわります処理の仕方といたしましては、それは行政の分野に属すると考えられますので、憲法の規定に従ひまして行政を預かります内閣、これがそれについて責任を負うべきものというふうに思ひております。また、いわゆる公的行為は原則として公開すべきものというふうに思ひております。

なお、大嘗祭につきましては、先ほど申し上げましたような宗教上

【前文・天皇】

の儀式という性格もございますことから、そういうふうに見られることが否定できない、あるいはその態様においても内閣がその内容に立ち入ることはなじまない、こういうことでございますので国事行為として行うことは困難でございます。ただ、大嘗祭は極めて重要な伝統的な皇位継承儀式でございますから、午前中官房長官からお答えがありまして、全くの私的人格のものとして内廷費で支弁するというのは適当ではないのではなからうか。そういう意味で公的性格を有する皇室行事ということで官廷費、一部は宮内庁費でございます。うが、そういうものを使用して行われるということでございます。

○田淵哲也君　そうしますと、内閣が大嘗祭の意義づけについてこういうものを決めるということは、皇室あるいは天皇陛下は当然これに従ってその儀式が行われるというふうに解釈していいわけですか。

○政府委員（工藤敦夫君）　先ほども首席内閣参事官の方からお答えございましたように、即位の礼準備委員会におきましては、むしろ新憲法施行後に初めて行われるということを考えまして、その際に憲法の趣旨に沿ってかつ皇室の伝統等を尊重し、そのときにいわゆる国事行為として行える範囲あるいは行い方というふうなものを検討したわけでございます。そういう意味で、当然そのときの検討の視野の範囲にはそういう大嘗祭といったようなものまで含めて検討した上で、やはりその部分は国事行為としては行うことは非常に困難だ、そうすると即位の礼をこういう三つの儀式とするんだ、こういうことでございますから、いわば検討の過程においてそこまで入り、その儀式なり位置づけをした上で国事行為としては無理だと、こういうふうにごこのペーパーをお読みいただければ幸いです。

○田淵哲也君　その点はよくわかるわけですが、問題は、この大嘗祭の意義づけとか持ち方というのがやはり国民の関心が持たれる

と思うんです。したがって、この政府の見解のように五穀豊穡を祈念するというのがその最大の意義づけである、内閣がそういう意義づけをした場合に、当然皇室、天皇はこれに従って行われるという解釈でいいかどうかということを知りたいわけです。皇室や天皇は自分たちの行事、独自の行事だから内閣がどう位置づけしようが主宰者は天皇であり皇室であるということになると、内閣はそこまで関与できるのかということをお伺いしておるわけです。

○政府委員（宮尾盛君）　こういう見解をまとめるに当たっては、大嘗祭というのは長い伝統のある皇室の儀式でございますから、どういふ内容をもって行われてきたかというようなことも十分検討いたしたわけでございます。そして、それは皇室の行事としてこれから行われる場合にも皇室の伝統というものを踏まえて行われるわけですから、我々は政府という立場であるいは宮内庁という立場で長い伝統はどういう意味合いを持っていたのかということも十分検討してここにあるこういう考え方をまとめたわけでございます。ことしの秋に行うことを予定しております大嘗祭もそういう伝統的な儀式でございますから、そういう伝統ののっとって行われる限りこういうものとして意義を持って行われるであろう。

また、この政府がおまとめになった基本的な考え方につきましては、皇室をお手伝いをする我々の立場で宮内庁も入ってそういう検討をいたしておる、こういうふうにご理解いただきたいと思います。

○田淵哲也君　私は、伝統を重んじてこういう儀式が行われるというのは非常に重要なことであり、賛成するものでありますけれども、先ほどからお伺いしておる点は、大嘗祭の意義づけとかそういうものも時代によっては学術的にいろいろな説が出てきたり、あるいは国策上いろいろな意義づけをしたりすることが歴史的に行われてきているわけ

すね。したがって、この新憲法下で初めてこういうものが行われるならば、その意義づけとか考え方というものは国でやっばり統一しておかないとまずいと思うんです。

だから、これは主宰者である皇室や天皇陛下も、内閣も同じ認識に立ってやらないとまずいのではないかとこのことを申し上げているわけですが、これは公的行事として宮廷費で出すわけでありますから、天皇は憲法を守ることとも言っておられますから、それに従って内閣が一つの考え方を出した場合には当然それに沿ってその行事は行われるというふうに理解してよろしいかということをお伺いしておるわけです。

○政府委員（宮尾盤君） 皇室の諸行事をいろいろな意味でお手伝いをする立場にあるのは宮内庁でございますから、宮内庁も参加をいたしまして政府の委員会という場においてそういうものをまとめてきたわけでございます。こういう政府の委員会がこのような即位礼、大嘗祭についての見解をまとめたということは陛下は十分御承知になっておられるというふうに理解をいたしております。

## 42 天皇の政治的利用

（一五四回・平一四・二・七）  
（衆・本会議・七号二頁）

○都築讓君 ……施政方針演説の最後に、昭和二十一年の国会始で詠まれた昭和天皇の御製を引用し、現下の難局に雄々しく立ち向かっていこうと、議員、国民に呼びかけました。……これは、天皇は国政に関する権能を有さず、憲法の定める国事行為のみを行うと規定し

て、象徴天皇の非政治性明らかにし、政治的な権威づけへの利用を排除しようとする憲法第四条に違反しています。

○内閣総理大臣（小泉純一郎君） 昭和天皇の御製を引用したことに

ついての御質問でございます。昭和二十一年正月、まだ敗戦に打ちひしがれた多くの国民がいる中で、あの「ふりつもるみ雪にたへていろかへぬ松そをよしき人もかくあれ」私は常々、感動しておりました。困難に直面しても、難局に際しても雄々しく立ち向かっていこうという、そういう願いを込めたお歌だろーうと思ひまして、引用させていただきました。

私は、これは、心を深く打たれるか打たれないかはその人の感性の問題だと思ひます。政治利用には当たらない、天皇陛下の政治利用であるという御指摘は当たらないと考えております。

## 43 天皇の政治的利用

（一五四回・平一四・二・一八）  
（衆・予算・一二号二一頁）

○都築委員 ……自分の、小泉総理の政策の訴え、そして、それに対する協力、理解、支援といったものを国民に呼びかけた。呼びかけるに当たって総理大臣が昭和天皇の御製の歌を引用したということは、明らかにこんなのは政治的利用にほかならないじゃないですか。どうですか。

○津野政府特別補佐人 ……

天皇の政治的な利用、昭和天皇の御製のお歌を引用したことがそういうことになるのではないか、政治的な利用をしたことになるのでは

【前文・天皇】

方によつては、憲法七条の天皇の国事行為の中の儀式ということに入る。どういふ解釈をなさいますか。

○宇佐美説明員 いまおあげになりました憲法第七条の最後に、天皇の行なわれる儀式ということが天皇の権能の中へ掲げてございます。もちろん内閣の助言と承認のもとに、国民のために行なうというふうに書いてございます。現在、それに当たりますものは、お正月の祝賀の儀というのが、唯一のものであるという国としての解釈になっております。その他、信任状認証式とかいろいろございますが、これは国家の公的な儀式ではあると思いますけれども、第七条の儀式とは政府は取り扱っておりません。

ただ、過去の例から申しますと、皇太子さまの立太子礼、それから成年式を一緒に行ないましたが、これが国事行為として行なわれております。

○受田委員 大喪の礼は、皇室典範に規定してあるが、その大喪の礼、これが国事行為に入るかどうかです。

○宇佐美説明員 これは、まだ正式に打ち合わせが済んでおりませんが、われわれは、国事行為であるというふうに考えております。

12 勲章授与の根拠について

(七五回・昭五〇・六・五)  
衆・決算・九号七頁)

—〔公式制度〕44 参照

13 任命と認証の違いについて

(九一回・昭五五・三・二七)  
参・内閣・六号一三頁)

—〔前文・天皇〕六条2 参照

14 天皇の崩御・即位に伴つて行われる国事行為としての儀式

(一一三回・昭六三・一一・八)  
衆・決算・一〇号一六頁)

○東中委員 私は、天皇の代がわりに伴う、憲法七条による国事行為としての諸儀式についてお伺いをしたいと思います。

主権在民と政教分離の原理が明記されております日本国憲法下において、天皇の代がわりの儀式がどのように行われるのか。憲法第七条の「天皇の国事行為」として行われる儀式はどういう儀式があるのか、お伺いをしたいと思います。

○味村政府委員 法律上の事柄について申し上げますが、憲法第七条は天皇の国事行為を限定列挙しているわけでございます。そして、その十号に「儀式を行ふこと。」というのがございまして、ここに言う「儀式」というのは、天皇が主宰されまして国の儀式として行うにふさわしいものを言うというふうに考えております。

ところで、皇室典範第二十四条には、「皇位の継承があつたときは、即位の礼を行う。」と規定しておりますが、また同じく、皇室典範の二十五条には「天皇が崩じたときは、大喪の礼を行う。」という規定しております。これは皇位の継承及び天皇の崩御がございま

した場合には、憲法第一条が規定いたしておりますように、「天皇は、日本国の象徴であり日本国民統合の象徴」であることにかんがみまして、国事行為たる儀式として、即位の礼及び大喪の礼を行うことを予定したものと解されるわけであります。

○東中委員 国事行為として行われる即位の礼、それから大喪の礼、新皇室典範に書いてあるその儀式の具体的内容をお聞かせ願いたいと思います。

○小淵國務大臣 皇室典範に定める即位の礼及び大喪の礼の儀式は、憲法の趣旨に沿い、かつ、皇室の伝統等を尊重したものと考へておりますが、具体的内容につきましては現在お答えのできる段階ではございません。

○東中委員 今まで政府は、憲法の趣旨に沿い、かつ、皇室の伝統等を尊重してということを行われておつて、そうしたものになると質問主意書に対する答弁もそう書いてあります。

問題は、皇室の伝統等を尊重すると言つておるその伝統というのは一体何なのかということに結局帰着するわけでありますが、帝國憲法と旧皇室典範では、名前は同じ天皇ですけれども、天皇は天照大神から授かった祖宗の神器を受ける、これは旧皇室典範に書いてありますね、受けた万世一系の神聖不可侵の現人神で、国の元首にして統治権の総攬者である、陸海軍の統帥権者である、こういう絶対的な天皇であつたわけですね。その天皇の代がわりの場合には、帝國憲法と旧皇室典範に基づいてつくられた皇室令、登極令なり皇室喪儀令なり、こうした皇室令に基づいて天皇代がわりの儀式がやられてきたわけでありまして、大正から昭和に代がわりしたときの儀式は、踐祚の式として四儀式、大喪の儀として二十九儀式、即位の礼及び大嘗祭として二十八儀式、一年余にわたつて合計六十一の儀式がとり行われてきた。このことは、宮内庁なども、我々の方に七九

年の内閣委員会するときなどで資料で出されておるところであります。

そこで問題は、この皇室令というのは、日本國憲法によつて、その九十八条の趣旨からいつても、帝國憲法及び皇室典範が現行憲法に反する、原理が反するものだとして廃止されたものですね。だから、皇室令に基づいてやられた明治以後の儀式というのは、皇室の伝統じゃなくて、帝國憲法に基づいた、旧皇室典範に基づいた皇室令によつてやられたものであつて、それは今や廃止されているものであります。だから、主権在民で、しかも政教分離の原理をちゃんと出している中では、さきに皇室令に基づいてやられた儀式を踏襲するということは、憲法原理がまるきり違いますから、私は許されないことだと思つたのですが、その点についての政府の御見解を承りたいと思います。

○味村政府委員 旧皇室令が新憲法の施行と同時に廃止になっておりますことは、委員の御指摘のとおりでございます。しかし、旧皇室令によつて行われておりました御喪儀なり即位の礼が、伝統でないということにはならないと存じます。したがしまして、今回の、先ほど申し上げました即位の礼なり大喪の礼につきましては、新憲法のもとで新憲法の趣旨に沿うような形で、しかも伝統を尊重して行われる、このような、先ほど官房長官の申されたとおりのことになるわけでございます。およそ新憲法に違反するような儀式というものは國の儀式として行われることはないと思つてよろしいと存じます。

○東中委員 天皇代がわりに際して行われる最初の国事行為としての儀式は、どういう儀式ですか。

○宮尾政府委員 旧憲法下におきましては、踐祚の式といたしまして、賢所の儀、皇靈殿・神殿に奉告の儀、劍璽渡御の儀及び踐祚後朝見の儀というものが行われております。

【前文・天皇】

○東中委員 何を言っていますか、あなた。新憲法、現在の憲法で最初にやられるのは何ですかと言うて聞いておるのであって、あなたの言われたいわゆる踐祚の儀としての四つの儀式、それは旧憲法の皇室令に基づくものですね。だからそんなもの先刻承知なんです、それをやるつもりですかということを聞いています。

ところで、現行の皇室典範によりますと、踐祚という概念は既にありませんということの内閣法制局長官が既に答弁をしています。踐祚の概念は現行法上ないので、踐祚の儀式というものはあり得ないわけですが、その点はいかがですか。

○宮尾政府委員 先ほど申し上げましたように、旧憲法下におきましては四つの儀式が行われたわけですが、皇位継承があつたときに行われます諸儀式のうちで国事に關する行為としての儀式は、憲法の趣旨に沿ひまして、かつ、皇室の伝統を尊重したものに、なるというふうに考えておりますが、その具体的な内容につきましては現在お答えをする段階にはございません。

なお、踐祚という言葉は現在の憲法、法律のもとでは即位という言葉になつております。

○東中委員 法制局長官が、踐祚の概念は現行法制上ございませんという答弁をしたのは、七九年四月十七日の内閣委員会です。そういう答弁をしています。宮内庁がそれを変えろと言つたので、始めから、即位、即位という言葉は前からあつたのです。それで、現行法の即位の言葉と前の即位の言葉では違ふ、踐祚の概念は現行法上ない、しかし踐祚の儀式はやるんだというのか、やらないというのか、ここが今の話でははっきりしないわけですね。

改めてお伺いをしますけれども、先ほど宮内庁からお話のあつた劍璽渡御の儀、現在は言葉をかえて劍璽等承継の儀という言葉で、いわゆる三種の神器などの承継儀式をやるといふに準備をされ

ているということが、一部もう既に報道をされておるわけです。その後、踐祚後朝見の儀というのが即位後朝見の儀というふうにな前を変えてやろうとしているというふうなことが、既に情報として報道をされております。それで私はお聞きしたいのですが、劍璽渡御の儀あるいは即位後朝見の儀というふうなものは、名前を変えても実質的には同じようなことを国事行為としてやることは許されないと思うのですが、その点はいかがでしょうか。

○味村政府委員 先ほどの、現在の法制度のもとでは踐祚という概念がないということ、前の法制局長官が答弁したということですが、実は私その答弁を持ってきたりしませんので、はっきりしたことは申し上げられませんが、旧憲法のもとにおきましては、踐祚というのは皇位の継承である、天皇の位を継承することを踐祚と言ひ、そして、天皇の位を継承したということを内外に宣明することを即位と言つたというふうな、私はそのように理解をいたしております。現在は、先ほど宮内庁の方からおつしましたように、踐祚は即位と申しますか、踐祚という言葉はございませんで、皇位を継承することはすなわち即位であるというふうに考えている次第でございます。また、皇室典範もそのように規定をしているものと存じます。

ところで、先ほどの劍璽渡御の儀等についての御質問でございましたが、これは先ほどから御答弁がございすように、皇位の継承があつたときに行われます諸儀式のうちでどのような儀式を国事行為として行ふかということについては、答弁できる段階にございせんということでございますので、それにつきましてまた御質問にお答えすることはできかねるということ、御理解いただけたらと思ひます。いずれにいたしましても、先ほど申し上げましたように、憲法に反する儀式を国の儀式として行ふことはあり得ないわ

けでございます。

○東中委員 準備してないんだそうですが、私ここへ持ってきておりますので、先ほど言いました昭和五十四年四月十七日衆議院内閣委員会、当時の真田政府委員、法制局長官ですが、

現行の制度で申しますと、踐祚という概念が実はないわけなんです、先ほどお読みになりました皇室典範の第四条で「皇嗣が、直ちに即位する。」ということと、云々

とあって、次に、

この「即位の礼を行う。」という場合の即位の礼は、憲法の規定に照らせば、憲法第七条の国事行為の末号にある「儀式を行ふこと。」という儀式に入るのだらうと思いますが、踐祚という概念はもうございせん。

と、はっきりそういうふうに言っているので、私が勝手に言っているわけでも何でもないのです。だから、今言われていることを、踐祚という言葉がなくなったと、今法制局長官はそう言いました。ところが、ここは私は言葉のことを言っているのではなくて、そういう概念はなくなったんだ、現行制度上、概念はなくなったんだと前の法制局長官は言っているんです。そういうことをごまかしただけかめです。その点を指摘しておきます。

だから、踐祚の概念がなくなったんだから、踐祚の儀式というのはなくなるのが当たり前なのです。それをなくするのか、なくさないのかということについてはっきり言わないというのは、私はこれは非常に重要な問題を含んでいると思うのです。

といいますのは、いわゆる剣璽渡御の儀といいますのは、剣はいわゆる草薙剣とか天叢雲剣というものです。それから曲玉ですね。それから、鏡の方は三種の神器の中に入るけれどもここには具体的に

【前文・天皇】

通 22 - 27

は入らないようですが、そういう剣璽の神器を渡すのは、旧皇室典範には十条ではっきりと「祖宗ノ神器ヲ承ク」というふうになんと書いてあるんですね。ところが、今度の皇室典範ではその部分が削られておるのですから、ないのですから、なくなっておるものをやっちゃいかぬ。

なぜなくなっておるかといえば、三種の神器の承継といいますのは、神話に基づいて天照大神から授けられた神器を新天皇に引き継ぐという儀式で、そして神格性を新天皇に持たせる。だから「神聖ニシテ侵スヘカラス」という旧憲法の天皇にはこれが要ったわけです。しかし、今の新天皇ではそういうものは一切ないので、「国民の総意に基く。」という象徴天皇なんです。だから、そういうものをここに持つてくるということになれば神話の世界を持ち込む。国の行為としてそれを持ち込むということになれば、これは主権在民の、しかも政教分離の原則をうたっている憲法上そういうことは許されないんだ。憲法の趣旨に沿って言うなら、憲法の趣旨に沿ってこれはやめるべきであるというふうに思うのですが、改めてもう一回御見解をお伺いしたい。

○味村政府委員 先ほどから申し上げますように、具体的な問題についてお答えをできる段階ではございません。この儀式につきましては一番問題となりますのは、憲法第二十条第三項の政教分離の原則でございます。この憲法第二十条第三項の政教分離の原則につきましては、有名な地鎮祭に関する最高裁の判決がございます。私どももいたしましては、この最高裁の判決を尊重いたしまして、二十条第三項に違反するかどうかということを絶えず判定している次第でございまして。

○東中委員 もう一つ、即位の儀式に関連しまして。大正から昭和に移ったときは、先ほど申し上げたように、即位及び大嘗祭ということ

【前文・天皇】

で、ここで大嘗祭の儀式が二十八のうちの相当部分を占めています。この大嘗祭については、国事行為の儀式としてあり得るということなんでしょうか。そういうことは現行憲法上は許されないということなんですか。その点、前の真田法制局長官は、先ほど述べました答弁の続きで、「それから、大嘗祭については現在もう規定はないというふうにお考えになって結構だと思います。」という答弁をしています。

といいますのは、この大嘗祭といいますのは、万世一系の天皇が、神聖不可侵の国家統治の大権を持つ元首として、現人神としての位置につくというためにやられる大嘗祭なんです。大嘗祭がなかったら神格を持ってないんだというふうに、これは歴史的には解明されていることです。そういういわば皇室神道の中核的な呪術的儀式なんです。それを大嘗祭という形で、国家行為としてですよ、内閣の助言と承認によって行われる天皇の国事行為の儀式としてやられるということになりますと、まさに天皇神格化に結びつく。そして皇室神道をそのまま国家行事としてやってしまうことになるので、これは憲法の二十条はもちろん、これは天皇を主権者に押し上げていこうとするそういう動きと関連していきますので、私たちは憲法上絶対許されないというふうにご考慮しております。

大嘗祭についていかがお考えでありますか、改めてお伺いしたいと思います。

○宮尾政府委員 大嘗祭は、皇室に長く伝わっております極めて重要な伝統的儀式でございますが、その性格づけ等につきましては今後慎重に検討すべき問題でございます、どのようにこれを行うかということについては現在お答えをする段階にございませんので、御了承いただきたいと思います。

○東中委員 今、代がわり——要するに日本国憲法ができてもう四十

年なんです。そして、明治憲法の場合の代がわりのときには、例えば登極令は明治四十二年にできていますね、儀式のやり方について。そしてもう一つ、大喪礼については、この皇室令は大正十五年にできています。いずれも儀式をやる前にちゃんとできているのですよ。ところが、今度の場合は初めてでしょう。しかし何にも言わない。検討中とか言ったり、憲法の趣旨と伝統を尊重してなんということを言ったり明らかなにしないというのは、非常に異常であるということを私は指摘をし、今申し上げたような大嘗祭とそれから踐祚の儀、これは一切許されない、それから即位の礼と大喪の礼もやり方によっては政教分離の原則に反するようなことは、そして、主権在民の原則に反するようなことは許されないということをはっきり申し上げまして、私の質問を終わります。

15 即位の礼の儀式の範囲を定めるに当たつての  
基準について

(一一八回・平二・四・一七)  
衆・内閣・三号一五頁

○山口(那)委員 ……即位の礼に対しては、旧皇室典範及び登極令等に詳細な規定が置かれてありますが、このたびの即位の礼は、国事行為として行う範囲として、即位礼正殿の儀、祝賀御列の儀、饗宴の儀、この三つに集約されました。この儀式の範囲を定めるに当たって、憲法の趣旨に沿ってどのような点を配慮したのか、具体的に述べていただきたいと思います。

○多田説明員 皇室典範の二十四条で「皇位の継承があつたときは、



即位の礼を行う。」という規定がございまして、その即位の礼というものが具体的にどういうものを指すかということについては、各方面からいろいろな意見がございましたので、準備委員会で慎重に検討いたしました。そして先生おっしゃったとおり憲法の趣旨に沿って、しかも皇室の伝統等を尊重してという基本路線で各儀式等を検討して整理をしていった結果、この三つは即位の礼ということで国事行為として行うことに非常にふさわしい儀式だというふうに判断をいたしました。この三つに具体的には決定させていただいたということでございます。

○山口（那）委員 その際、旧登極令に細かな規定があるわけですが、それらのすべての儀式のうちからこの三つに絞ったということは、例えば宗教性の伴う儀式等を外したということになるのでしょうか。

○多田説明員 おっしゃるとおり、宗教の問題のほかにも現行の憲法から考えるとどうもふさわしくないという性格のものもかなりございますので、そういうものは全部外させていただいたということでございます。

○山口（那）委員 その宗教的性格のほかに、現行憲法のもとでふさわしくないとお考えになった具体的な基準を幾つか述べていただきたいと思ひます。

○工藤政府委員 若干申し上げますと、今首席参事官の方から政教分離原則のお話がありましたけれども、それ以外にも、まず国民主権の原則に反しないかどうかというのが一つございます。それから、憲法一条に規定してございます象徴たる天皇にふさわしいものであるかどうか、こういった基準があるかと思ひます。

## 16 大嘗祭を国事行為として行うことの可否

（一一八回・平二・四・一七  
衆・内閣・三号一八頁）

○工藤政府委員 大嘗祭が憲法二条で書いてございます世襲というのに非常に結びついていっていることは事実だろうと思ひます。

ただ、いわゆる皇室典範におきまして、先ほどもお話がございましたけれども、これは二十四条「即位の礼を行う。」というふうに書いてございまして、「皇位の継承があつたときは、即位の礼を行う。」ということは国事行為たる儀式として即位の礼を行うことを予定したものだと思ひますが、大嘗祭の中核は、今も宮内庁次長からお話がございましたように、大嘗宮において天皇が皇祖及び天神地祇に安寧と五穀豊穡を祈念されるというふうなこともございますし、そういう趣旨、形式等から宗教上の儀式としての性格を有するんだ、そういうことは否定できないであろう。したがって、大嘗祭を七条で言う国事行為として行うとすれば、やはり憲法の二十条三項に言う宗教的活動を国が行うということになるのではないか、そういう疑いはなお消し切れませんので、そういう意味で大嘗祭を国事行為として行うべきではない、かように考えているわけでございます。

○田淵哲也君 …… 当内閣委員会における法制局の答弁によりますと、登極令が廃止されたのはその内容が現行憲法に違反するかどうかということにかわりなく法体系上の問題として一律に廃止された、したがって登極令の内容が現行憲法に違反しておるかはその内容ごとに判断する必要がある、こういう答弁をされておるわけであります。それでは、法制局が現行憲法の趣旨に沿って登極令の内容を一つずつ判断して、どの内容が現行憲法に違反し、どの内容が現行憲法下においても合憲と判断しているのか、見解を示していただきたいと思ひます。

○政府委員（工藤敦夫君） 登極令が廃止されました件につきましては、さきのこの委員会におきましても、また本日の午前中におきましても私からお答え申し上げておりますが、現行憲法の施行とともに旧皇室典範あるいは登極令等の皇室令、こういうものの法体系自体が認められなくなった。そういうことで、その内容が現行憲法の規定に違

（一一八回・平二・五・二四）  
参・内閣・三二二頁

## 52 旧登極令のうち現行憲法に違反する規定は何か

璽につきましては、いわゆる皇位とともに伝わるべき由緒あるものと、こういう評価がなされておりました、そういう意味でこれは決して神話ということではなくて、皇位とともに伝わるべき由緒あるものとしての剣及び璽、それから国事行為の際に使用される御璽及び国璽、いわゆる印鑑でございます。御璽及び国璽、これを承継される儀式でございますので、そういう意味で憲法に違反するというようなものではない、かように考えております。

通 23 - 11

反するものであるかどうかにかわりなく一律に廃止された、こう申し上げているところでございます。

ところで、登極令の規定につきまして逐条網羅的に検討をしているわけではございませんので、すべての規定について申し上げるのは困難ではございますけれども、例えば登極令の中の二条、三条といったところに元号の規定がございます。天皇が元号を改めるといふうなところでございますけれども、御承知のとおり新憲法下久しくいわれる昭和という元号が事実上のものとして使われ、その後元号法が制定されたというところから見ましても、憲法の趣旨と相入れないものとして考えられていたというふうに思いますし、あるいは大嘗祭を国の儀式として行うという部分につきましても、新皇室典範におきましてその部分を取り入れなかったというふうなことでございます。そういう意味で、今のような規定が問題になると申しますか、新憲法下におきます検討としてはあるのではなからうか、かように考えております。

## 53 天皇の公的行為および大嘗祭についての内閣のかかり方

（一一八回・平二・五・二四）  
参・内閣・三二二頁

（前文・天皇）四條 41 参照

【国民の権利・義務】

116 大嘗祭の費用を宮廷費から支出することと憲法二〇条、八九条について

(一一八回・平二・四・一七)  
衆・内閣・三号四頁

○大森政府委員 ……第二点でございますが、まず大嘗祭経費を宮廷費によって支弁できる法律上の理由づけにつきましては、その概略について先ほど宮尾次長から答弁がございまして、その概略として、そのような理由によりまして宮廷費で支弁することの憲法上の問題は、憲法二十条第三項との関係、そしてまた八十九条との関係が問題になるわけでございます。今までの答弁であられておりますように、大嘗祭と申しますのは宗教上の儀式としての性格を有すると見られることは否定できないところでございますが、大嘗祭はあくまで今回は皇室の行事として行われるものでございます。そして、しかもその挙行のために必要な宮廷費の支弁による費用の支出といえますものは、この大嘗祭の公的な性格という面に着目いたしまして支出するものでございますので、国がそのような観点に着目してそのような限りでの財政的なかわりを持ちまして、その支出の目的が宗教的意義を持たない、そしてまた特定宗教への援助、助長等の効果を有する行為であるということは到底言えないと思います。これは、よく引用されます地鎮祭判決、最高裁判所の地鎮祭事件に関する判決の趣旨に照らしましてもこのように言えるものであると考えられます。したがって、国が大嘗祭のための費用を支出いたしましても、憲法二十条第三項との関係でも、また八十九条との関係でも、いずれも抵触する疑いは何らないというふうに考えている次第でございます。

117 大嘗祭を国事行為として行うことの可否

(一一八回・平二・四・一七)  
衆・内閣・三号一八頁

1 (前文・天皇)七条―その他16 参照

118 大嘗祭の費用を宮廷費で支出することと憲法二〇条、八九条

(一一八回・平二・四・一七)  
衆・内閣・三号一八頁

○山口(那)委員 大嘗祭をとり行う費用を宮廷費で支出することですが、これは憲法二十条三項及び八十九条の趣旨と調和するのでしょうか。

○工藤政府委員 ただいまも申し上げましたように、大嘗祭は、皇位の継承があったときは必ず挙行される、一世に一度の儀式として古来から行われてきた、極めて皇位継承に結びついたあるいは皇位の世襲制と結びついた、即位に伴う儀式の一環である、こういうことだと思います。そういう意味で、いわば皇位とともに伝わるべき由緒ある儀式、こういうふうに性格づけられるだろうと思います。

皇位の世襲制、先ほど御指摘のように憲法二条にございますが、そういう世襲制をとる日本国憲法のもとにおきまして、その儀式の挙行について国として関心を持つ、人的あるいは物的な側面からその挙行を可能にするような手だてを講ずる、こういうことは当然であろうと考えられます。そういう意味で、大嘗祭は公的性格があるというふ

うなことを従来から申し上げてきているわけでございます。

ただ、大嘗祭が宗教上の儀式としての性格を有すると見られることは今申し上げたように否定できないわけでございますけれども、例えば津の地鎮祭判決などに照らしましても、大嘗祭は皇室の行事として行われるものでございまして、国の機関の行事ではない。それから、その挙行のために必要な費用は、今申し上げたような大嘗祭の公的性格に着目いたしまして、官廷費あるいは一部は宮内庁費から支出されるものでございます。そういう意味で、その支出の目的が宗教的意義を持たない。いわゆる津の地鎮祭で言われます目的・効果論に照らしまして、支出の目的が宗教的意義を持たない、また特定宗教への助長、介入等の効果、その効果を有する行為を行うことになるとも言えない。そういうことで、国がこういうような面でかわり合いを持ちましても、大嘗祭のための費用を公金から支出することとは憲法二十条三項の宗教的活動を国がするということにはならないし、また、そういうような公金の支出というものは、津の地鎮祭判決等に照らしましても憲法八十九条が禁止いたします宗教上の組織、団体に対するものというふうには言えないと思います。憲法八十九条の面からも問題はない、かように思っております。

○山口（那）委員 少なくとも法的な理解からすれば、世襲ということとは血のつながりということを規定しているわけであって、当然に即位の儀式とそれに伴う大嘗祭までも予定しているものと理解するのは困難だろうと思います。また、憲法及び皇室典範二十四条に照らして言えば、皇位の継承というのは即位の礼に限られるわけであって、法律上は大嘗祭というものはそのうち外にあるというふうには理解すべきであろうと思います。

その上で、この大嘗祭は公的性格があるというふうに盛んに述べら

道 22 - 81

れておりますが、公的性格があるなしということは、例えば私的な事柄として内廷費で賄うにはそぐわないという趣旨で述べるのであればそれは理解できますけれども、大嘗祭に国が官廷費をもってお金を出すということは、まさに国家と宗教とのかわりには否定できないわけで、それを合憲的にもし説明をするとすれば、もっと説得力のある理由を考える必要があるかと思えます。

そこで、先ほどおっしゃった津の地鎮祭の事件の判決であります、原則的に行政当局としてはこの判決の意義をどのように理解されていきますか。

○工藤政府委員 津の地鎮祭判決につきましては、いわゆる憲法の二十条あるいは八十九条、八十九条については比較的触れるところが少ないわけでございますが、そういう意味でその解釈の基準になるもの、かように考えております。

○山口（那）委員 行政府としてもその基準を尊重するというお立場かと思えますけれども、いわゆる目的・効果説と言われて先ほどお述べになりました。これは非常に抽象的な表現であつたわけですが、大嘗祭のかかわりにおいて具体的にその目的及び効果についてもう一度述べていただきたいと思えます。

○工藤政府委員 今の御質問でございますが、具体的に申し上げますと、まず第一に大嘗祭は皇室の行事として行われるもので、国の機関の行為ではないということでございます。その挙行のために必要な費用というものは、大嘗祭が皇位の世襲制と結びついて、一世に一度の儀式として古来から皇位の継承があつたときは必ず挙行される、こういうことで行われてまいりました極めて重要な儀式である、そういう面に着目して、官廷費からあるいは一部は宮内庁費から支出をいたしましても、その支出の目的がその宗教的意義に着目して支出をするもので

## 【国民の権利・義務】

はないということが一つでございます。そういう意味で、目的・効果論のうちのまず目的の部分でございます。

それから効果としまして、これが特定宗教への助長、介入という津地鎮祭判決で述べておりますようなそういう効果を有することになるとは到底言えないであろう、かように考えているわけでございます。

○山口（那）委員 今の御答弁は非常に抽象的でわかりにくいわけでありまして、大管祭が人的、物的な一体の宗教的性格を帯びる儀式として行われる以上、それを経済的に支えるということは、その目的において宗教的意義を持つことになりませんか。また、その効果において、特定の宗教かどうかはともかくとしても、それが宗教的儀式にかかわる、それを支持する人々に対してその援助、助長の感覚を覚えさせ、また、他の信仰を持つ人々に対して圧迫感を覚えさせる。現に多数の宗教団体でこの大管祭の官廷費支出については反対を述べているところもあるわけですが、その点について、今の御答弁では到底納得しがたいものがあると思いますが、いかがですか。

○工藤政府委員 地鎮祭判決のその部分でございますけれども、「憲法二〇条三項は、「国及びその機関は、宗教教育その他いかなる宗教的活動もしてはならない。」と規定するが、ここにいう宗教的活動とは、前述の政教分離原則の意義に照らしてこれをみれば、およそ国及びその機関の活動で宗教とのかかわり合いをもつすべての行為を指すものではなく、そのかわり合いが右にいう相当とされる限度を超えるものに限られるというべきであつて、当該行為の目的が宗教的意義をもち、その効果が宗教に対する援助、助長、促進又は圧迫、干渉等になるような行為をいうものと解すべきである。」というふうなことでございまして、私どもはこれに照らして、「かかわり合いをもつすべての行為を指すものではなく、そのかわり合いが右にいう相当とされ

る限度を超えるものに限られるというべきであつて、」ということでは目的・効果論を解釈しているわけでございます。

## 119

## 皇太子結婚式を国事行為として行つても憲法二

## 〇条に違反しない理由

（一八回・平二・四・一七）  
衆・内閣・三三三頁

○和田（一）委員 七条で天皇のいろいろな国事行為を規定されておりますけれども、三十四年三月の参議院の予算委員会での質疑応答の中でこういうことがございます。これは現陛下が皇太子のときの御成婚の儀ですが、これが国事行為として行われました。国事行為です。

そのときに答弁は、「その行い方につきましては、その家の方式で行う、その信ずるところで行うことが、むしろ憲法の精神に沿うのではないか。」という御答弁がございました。これは宇佐美宮内庁長官の御答弁でございます。賢所御前で成婚の儀はとり行われているのです。形式からいえば、これはさっきから言っている神道形式です。これが国事行為として認められておりながら、今回、今法制局長官はそういう性格を否定できないからというだけでこれを国事行為にしないというのがどうもよくわからないのですが、その辺、官房長官どうでしょう。

○工藤政府委員 確かに、今上天皇が皇太子であられたとき、皇太子結婚式の結婚の儀、これが国事行為として行われております。

若干その違いと申しますか考え方を御説明申し上げますと、皇族の婚姻の場合には、婚姻の儀式の挙行によって成立するというふうに解

【国民の権利・義務】

121 大嘗祭の費用を官廷費から支出することと憲法

二〇条

(一一八回・平二・四・二六)  
参・内・閣・二号二四頁

○政府委員(大森政輔君) 大嘗祭は宗教上の儀式としての性格を有すると見られることを否定できないということ、大嘗祭の経費として官廷費から公金を支出するということは矛盾しないというのが私の考え方でございます。

それを若干敷衍して申し上げますと、今まで何度も申し上げて恐縮でございますが、大嘗祭は皇位の継承があったときは必ず挙行されるところの一世に一度の儀式として古来から行われてきた極めて重要な儀式である、皇位の世襲制と結びついた即位に伴う儀式の一環をなすものとして皇室に伝承されてきたものである。いわば皇位とともに伝わるべき由緒ある儀式とも言えるものでございます。したがって、皇位の世襲制をとる日本国憲法のもとにおきましては、その儀式の挙行について国としても関心を持ち、人的、物的側面からその挙行を可能にする手だてを講ずることは当然と考えられるところである。その意味において公的性格があると私も考える次第でございます。

先ほど委員の御質問で、公的性格を有しないものに公金を出すのはおかしいじゃないかという御質問がございましたが、そのように聞き取ったわけでございますが、私どもは公的性格があるから官廷費を支出できるんだという前提に立っているわけでございます。

そこで、憲法八十九条及び二十条三項との関係でございますが、大嘗祭は宗教上の儀式としての性格を有すると見られることは否定できないところではございますが、先ほど申しましたように、まず皇室の

行事として行われるものであり、しかもその挙行のために必要な費用は大嘗祭の公的な性格という面に着目して支出するものでございますから、国がそのような財政的な面でかわりを持ちましても、その支出がその目的において宗教的意義を有するということにはならないと考えられますし、また効果の面におきましても、特定宗教への援助、助長というような効果を有する行為であるということには到底ならぬいのではないかと考える次第でございます。したがって、憲法八十九条が禁止をしています公金の支出にも当たらないのみならず、憲法二十条三項が国及びその機関が行ってはならないとしております宗教的活動にも当たらない、このように考えている次第でございます。

122 大嘗祭の費用を官廷費から支出することと政教分離との関係

(一一八回・平二・五・二四)  
参・内・閣・三号八頁

○三石久江君 次に、国事行為ではないがその費用を国費で支弁する理由として、皇位が世襲であることに伴います一世に一度の極めて重要な伝統的皇位継承儀式としての公的性格があると考えられて、その費用は官廷費から支出することが相当であるとのことですが、伝統的皇位継承儀式につきましては後ほど問題にしたいとして、宗教性を認め国事行為として行うことは困難としながら、国が内容に立ち入ることはなじまないとしながら、公的性格があるから官廷費すなわち国費で支弁するというのは、至って庶民の私にはわからないんです。総理府本府の予算でなく皇室費の中の官廷費にするのは、宗教性を

認め、皇室の私的行事と判断されるからではありませんか。

○政府委員（工藤敦夫君） 今の国費の支出のお話でございます。

私どもは、まず基本に置いておりますのは、昭和五十二年に出ました三重県の津におきます地鎮祭に關しましての最高裁判所の大法廷判決でございます。

多少長くなって恐縮でございますが、この判決によりますと、いわゆる憲法二十条三項、先ほどから申し上げておりますが、これによって禁止されている宗教的活動とは「およそ国及びその機関の活動で宗教とのかかり合いをもつすべての行為を指すものではなく、」「当該行為の目的が宗教的意義をもち、その効果が宗教に対する援助、助長、促進又は圧迫、干渉等になるような行為をいう」、いわゆる目的・効果論と呼ばれているものでございます。ある行為がそういう右にいうような宗教的活動に該当するかどうか、これを検討するに当たっては「当該行為の外形的側面のみにとらわれることなく、当該行為が行われる場所、当該行為に対する一般人の宗教的評価、当該行為者が当該行為を行うについての意図、目的及び宗教的意識の有無、程度、当該行為の一般人に与える効果、影響等、諸般の事情を考慮し、社会通念に従つて、客観的に判断しなければならない。」、これが今の地鎮祭判決のこの部分に關する概要でございます。

それをいわゆる物差しといたしまして考えてみました場合に、大嘗祭は、この政府見解にもございますが、宗教上の儀式としての性格を有すると見られることは否定し得ないけれども、大嘗祭は皇位の継承があったときには必ず挙行すべきもの、一世に一度の儀式として古来から行われてきた極めて重要な儀式である、先ほどからも申し上げておりますように、皇位の世襲制と結びついた即位に伴う儀式の一環をなすものだ、こういうふうなことで皇室に伝承されてきたものでござ

います。いわば皇位とともに伝わるべき由緒ある儀式、こういうことでございます。そういったしますと、皇位の世襲制をとっております日本国憲法のもとにおきまして、その儀式の挙行について国として関心を持つ、人的、物的側面からその挙行を可能にする手だてを講ずる、かようなことが当然と考えられる、その意味において大嘗祭は公的性格がある、かように申し上げたわけであります。そういう津の地鎮祭判決と大嘗祭の公的性格、こういうものを踏まえまして、大嘗祭は皇室の行事として行われるものでございまして、国または国の機関が行うものではない。

それから、その挙行のために必要な費用は、こういう大嘗祭の公的性格の面に着目して官廷費を出すものである、支出するものである。そういう意味で、支出の目的が先ほどの地鎮祭判決などに照らしまして宗教的意義は持たない、特定宗教への助長、介入等の効果、これを有する行為を行うことになることは到底言えないであろう。したがって、これが結論でございますが、国が大嘗祭のための費用を公金から支出いたしましたも憲法二十条あるいは財政関係の憲法八十九条、いずれにも抵触するものではない、かような考え方でございます。

○三石久江君 ただいまの御答弁の中で、大嘗祭は必ず行われてきた、こはちょっと違ふような気がいたします。

公的性格であつて、宗教性が少しあつてもと、認めているわけですね。認めていらっしゃるんですか。

○政府委員（工藤敦夫君） 大嘗祭につきまして、政府見解でも、宗教上の儀式としての性格を有すると見られることは否定できないと、かように書いてあるとおりであります。

我々はこの予算を審議し、私はこれに賛成しなければならぬと考えております。したがって、その儀が何か八十九条にかかわりがあって、それを考えなければならぬのだなどという懸念を与えるような答弁は私はおかしいと思う。……

○味村政府委員 私が生上げたものは、憲法八十九条につきまして解釈上両説があるということでございます。最初の説に立てば問題は無いという考えもできますし、後の説に立てば、葬場殿の儀、これは宗教的な色彩を持つということは争えませんが、それについての懸念というのが後の説に立てば起こり得るかもしれませんが、しかし、先ほど申し上げましたように、この天皇の大喪の儀は国民的敬申の対象でありまして、公的な性格を有しておりますから、こういう公的な性格に着目して公金を支出するわけでございまして、憲法上問題はないということを申し上げているわけでございます。

#### 49 大嘗祭の費用を官廷費から支出することと憲法

二〇条、八九条について

(一一八回・平二・四・一七)  
衆・内閣・三号四頁

一〔国民の権利・義務〕二〇条 参照 116

#### 50 大嘗祭の費用を官廷費で支出することと憲法二〇条、八九条

〇条、八九条

(一一八回・平二・四・一七)  
衆・内閣・三号一八頁

一〔国民の権利・義務〕二〇条 118 参照

#### 51 仏像のような重要文化財の管理等の補助を行うことと政教分離

ことと政教分離

(一一八回・平二・四・二六)  
参・内閣・二号一一頁

一〔国民の権利・義務〕二〇条 120 参照

#### 52 宗教系の私立学校に対する補助と憲法八九条

(一一八回・平二・四・二六)  
参・内閣・二号一二頁

○政府委員(大森政輔君) 議論の整理のために若干私から申し上げますが、先ほどの多田答弁は、必ずしも文化財的な側面があればいいんでそれ以外はだめなんだということではないわけでございまして、一つの事柄が二つの性格を持っている場合に、その一つの側面に着眼すれば問題な場合でも、他の側面に着眼すればいい、その場合に、その、他の側面に着眼して出すことがあり得るんだということでござい



【財政】

ます。

そこで、先ほどは仏像の件だけに議論が幅寄せされようとしているわけですが、同じことがやはり学校教育に対する補助についてもございます。御承知のとおり、私立学校法五十九条、国は教育の振興上必要があると認める場合には、学校法人に助成をすることができ、この規定を踏まえました私立学校振興助成法に基づきまして宗教系の私立学校に対しましても補助が現実になされているわけでございます。

この場合にも、宗教系の私立学校については宗教的な側面というものがあつたわけですが、宗教系の学校に対する補助は宗教的な側面に着眼してその宗教に対する援助、助長ということで出されているものではございませんで、そこで行われている私立学校の教育条件の維持向上、そして私立学校に在学する児童、生徒、学生等に係る修学上の経済的負担の軽減、そして私立学校の経営の健全の確保という一般的な目的からなされているもので、私どもはそれは現行憲法の八十九条に違反しないというふうに解しているわけでございます。

53 大嘗祭の費用を官廷費から支出することと憲法  
八九条

(一一八回・平二・四・二六)  
(参・内閣・二号一二頁)

○政府委員(大森政輔君) ……そして、お尋ねの、しからば大嘗祭についてはどうかということについても一度敷衍してお答え申し上げますと、御指摘のとおり大嘗祭はその趣旨、形式等からして

宗教上の儀式としての性格があることは否定することができないわけでございますが、大嘗祭のために必要な経費を官廷費という公費から支出いたしますのは、大嘗祭のこのような宗教上の儀式としての性格に着目したものではなくて、皇位が世襲であることに伴う伝統的皇位継承儀式という大嘗祭の公的な目的に着目したものでございます。したがって、大嘗祭のために必要な費用を公金たる官廷費から支出いたしましたとしても、その支出はそういう公的な性格に着目して金を出すという行為でございますから、その支出が宗教的意義を持たないと言えますし、また特定の宗教に対する援助、助長等の効果を有することにはならないと考えるわけでございます。

したがって、このような公金の支出は、八十九条が禁止している宗教上の組織もしくは団体に対するものとは言えないから、憲法に違反しないというふうに私どもは判断している次第でございます。

54 米軍に対する施設提供の一環としての教会の整備は憲法に違反しないか

(一一八回・平二・六・二二)  
(衆・決算・七号四頁)

○新村委員 ……そこで、防衛施設庁にお伺いをいたします。

これは前回の防衛庁のときにいろいろお伺いをいたしました。米軍の沖縄基地、キャンプ・コートニーそれから牧港、この二カ所、そのほか計画中のものがあるようでありますけれども、この二つについて、キャンプ・コートニーについてはこれは構造も完全に教会である、また牧港については、修養教育施設という名前ではある一方で